

2005年4月18日

全く知られていなかったバオバブの花の香りを 世界で初めて解明

愛知万博(愛・地球博)・マダガスカル共和国ブース内で4月20日から展示

株式会社カネボウ化粧品

カネボウ化粧品研究所・香料研究室は高砂香料工業株式会社と共同で、世界で初めてバオバブ(*Adansonia za*)花の香りを解明しました。



世界初! 未知の香り「ザーバオバブ」の花の香りを解明

サン・テグジュペリの「星の王子さま」にも出てくるバオバブは、高さが10メートル前後、幹の直径が3メートル以上、ときには10メートル近くになる巨木です。樹齢千年以上のもも存在し

「長寿の木」として知られています。葉、種子の周りの粉状の部分は食用にされ、幹は水分を多量に含み、樹皮は繊維質のため様々な形で活用されています。このバオバブはキワタ科に属し、マダガスカルやアフリカ、オーストラリアなど比較的乾燥した場所に分布します。世界では10種ほどあり、マダガスカルでは8種が知られています。

その中の一種、「ザーバオバブ(*Adansonia za*)」はマダガスカル固有種で、地元では「聖なる木」とされているものもあります。アフリカに自生するバオバブをはじめ、多くのバオバブの花は不快な臭いを発します。しかし、この「ザーバオバブ」は他種と異なり、香り高い花を咲かせます。このことは、世界的に全く知られていませんでした。



これまで、バオバブの葉や果実、種子の成分についての研究報告はありましたが、知り得る限りでは、花の香りについては全く報告がありませんでした。

そこで、当社は高砂香料工業株式会社と共同で、進化生物学研究所・湯浅浩史主任研究員(東京農業大学教授)と吉田彰主任研究員の指導のもとマダガスカルに赴き、ザーバオバブの花の香りの採取を試みました。得られた香りを精密分析にかけ、世界で初めてバオバブの芳しい花の香りを解明し、再現することに成功しました。

「ザーバオバブ」は手のひら大の黄橙色の花をつけ、熟した果実を思わせる非常に強いフルーティな香りがします。香りの分析方法としては、花を自然のままの咲いている状態に置き、花にストレスをかけない手法で

香りを採取する「エコロジカル・アロマ(ヘッドスペースガス)法」を駆使しました。その結果、香り成分として、オシメン、ーピネン、リモネンなどのテルペン類、さらに、果物を思わせるエステル類など約 200 種類ほどが明らかになりました。これらを組み合わせることにより、ザーバオバブの香りを忠実に再現することができました。

「愛・地球博」で展示スタート！

この再現した香りは、バオバブの木(レプリカ)とともに、愛知万国博覧会(愛・地球博)マダガスカル共和国ブース(長久手会場、グローバル・コモン5、アフリカ共同館内)にて4月20日より展示します。来場者はザーバオバブの香りを体験できます。

なお、この初めて明らかにされたバオバブの花の香りの研究成果は、香料関連の化学雑誌にて文献発表し、さらに秋季学会にて発表する予定です。

以 上